



南高SSHだより

第3号
H25.8.30
新潟南高等学校
SSH部発行

第2回 高大連携科学講座を開講しました！

7月20日（土）新潟南高等学校の視聴覚教室を会場に、本年度2回目の高大連携科学講座を開講しました。今回は「医療・薬学講座」です。その内容と生徒の様子を紹介します。

第1回講義 医療・薬学講座「楽しい植物学」

講師 白崎 仁 先生（新潟薬科大学薬学部生物学研究室・薬用植物園 准教授）

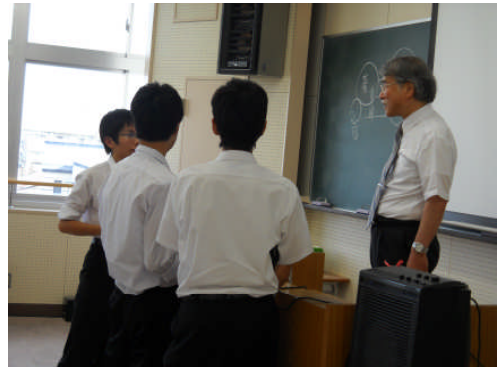
植物の分類、生活史を中心に講義していただきました。これらは医療、薬学と直接関連がないように思った生徒もいたかもしれません。しかし、先生が講義の初めに「研究材料としての植物とは？種の特性を知ってから、次に何をしようか、と考えよう」と示されたように、医療、薬学に生物学の基本的な知識は不可欠です。植物の美しいスライド写真を使い、また、コケ植物などの実物を持って来られ、植物の分類や生活史を、わかりやすく解説していただきました。先生が専門としているコケ植物の話が中心でしたが、シダ植物や地衣類についても説明がありました。これらは、普段、注目されることの少ない生物ですが、これを機会に、興味、関心を持つことができた生徒もいたと思います。また、学名についての質問が出るなど、生徒の知的好奇心の高さが垣間見られました。



第2回講義 医療・薬学講座「薬の良いところ、悪いところ」

講師 尾崎 昌宣 先生（新潟薬科大学薬学部薬効安全性学 教授）

主に薬の安全性について講義していただきました。薬とは何かという話から始まり、使い方によっては薬にも毒にもなることを、グラフを使って説明されました。クスリを逆から読むと、リスク（危険）となり、薬と毒は紙一重です。主作用は目的とする薬効、副作用は目的としない薬効ですが、副作用は薬害と同じではありません。そして薬害について具体的な説明がありました。薬に罪はなく、薬物情報を運用する人、社会が重要です。そのための心得として、患者はメモや質問などで医療従事者との相互理解を心がける必要があります。医療従事者も、薬の情報、安全性について常に注意を払わなくてはなりません。薬害を防ぐためには、患者、医療従事者、双方の心がけ、努力が必要です。生徒にとっては、薬の安全性の専門的な内容であったので、難しいと感じた人もいたと思いますが、将来、医療従事者になる人には、有益な講義だったと思います。



参加した生徒の声

- ・とてもおもしろかったです。特に話でとりあげられていた植物を実際にシャーレで実物を見られたことが良かったです。話の内容は難しかったのですが、植物にとっても興味を持つことができました。
- ・薬にとっても興味を持つことができました。特に印象に残ったのは、薬といっても様々な使い方や危険性などを含んでいて、薬は人にとって良い効能をもたらす一方で、人にとって害になったりもすることがあるということです。
- ・植物は植物でも、たくさんの種類があり、しくみを知ったり、実際の標本を見たり、とてもおもしろかったです。身近にあるコケの観察を試してみようと思います。
- ・薬は一歩間違えると恐ろしい毒になるということを改めて感じました。薬をうまく利用していきたいです。私は、薬学に少し興味があったので、今日の話聞いて、もっと知りたいと思いました。